

栃木県の幼児教育と小学校教育をつなぐジョイントカリキュラム

つなげよう！

とちぎのこどもの まなび



令和6（2024）年度幼小接続推進者研修まとめ

この資料は

- ❖ テーマを視点に、子どもの姿から教育内容・方法を想定した、幼小接続期の指導計画です。
- ❖ 入学を境にした時期に、子どもの学びや育ちがどのようにつながっていくのかを、共通のテーマから捉え、まとめました。
- ❖ 幼児期・年長後半から児童期・一年生前半にかけて大切にしたいことを、「大切にしたい子どもの姿」「育ちにつながる活動の例」「保育者・教師の指導のポイント」の3つの視点で示しました。
- ❖ 各園・各校でアプローチカリキュラムやスタートカリキュラムを見直す際の参考にしてください。
- ❖ 市町教育委員会や自治体等における幼小接続事業や、架け橋期の教育の充実の取組の際に御活用ください。



第1班 テーマ：工夫を重ねながら、粘り強く取り組む

益子町立益子西小学校 小林 身和子
やわらぎ保育園 野村 美和子

大切にしたい子どもの姿

無自覚な学び

- 音楽を作る、発表会の練習
 - ・おゆうぎ会で発表する内容や配役を自分たちで話し合いながら決める。
 - 「振付が難しいみたいだから、どうしたらいい？」
 - ゆっくりにしたらいいいよ
 - いっしょに練習してみよう！
 - 「配役は、どうする？」
 - 一人だと緊張しちゃうから、二人で言ったらいいんじゃない？
 - それいいね！

- 係活動
 - ・当番2～3人が前に出て確認。配るなど、先生の手伝いをする。
 - 先生、〇〇してみたよ！
- 栽培活動(サツマイモ、トマト等)
 - 元気がない気がする…
 - ごはんがたりないのかも
 - 「肥料」って言うんだよ！
 - 水も大切だよ！でも、あげすぎはダメってママが言ってた！

- 自己紹介
 - ・自分の名前や好きなものをかいた名刺を作って、交換し合う。
 - 〇〇が好きなんだね！
 - これ知ってる！僕も好きだよ。
- 学校探検
 - 校長室でお話したよ！
 - ぼくは、写真を見つけたんだ！
 - えっ、どこにあったの？気付かなかった！どんな写真だったの？

- 栽培活動(アサガオ等)
 - ・今までの経験を生かし、発展させる場
 - 幼稚園でも育てたよ！グリーンカーテンって言うんだって！
 - 〇〇なら育てたことあるよ！同じようにやればいいのか？
- 生き物の観察
 - ・自分の気付きを共有し、友達の発見に共感する。

自覚的な学び

目指す姿：子どもたちが相互に関わり合い、学び喜びや楽しさを味わいながら、自己決定していくことができる。

幼児期・年長後半

育ちにつながる活動の例



「お祭り」遊びを通して学ぶ姿



「マーチング」目標に向かう姿



「栽培・収穫体験」新しいことを知る・体験する姿



「学校探検」新しい出会いへの興味と好奇心をもつ姿



「意見の交流」



「清掃・係の仕事」今までの経験を伝えあい、学びを深める姿

児童期・一年生前半



保育者・教師の指導のポイント

- 安心感がある環境を担保
 - ・自分の意見が取り入れられた経験
 - ・自分の意見が認められる雰囲気
 - 課題があれば、みんなで話し合っ
 - てよりよくしていく
 - どうすればよいかを子どもたちに投げかける
- 仲間の一員として自分を捉える
 - ・みんなで何かを作り上げていく経験(マーチングの練習等)
 - ・関わる中で、それぞれのできごとを話し合いながら自然と役割分担をすることができる。
 - ・達成感から次の目標へ

- 子どもの「やりたい気持ち」を見守る・引き出す
 - ☆環境設定・子ども主体
 - ・準備しすぎない(大人の意に沿ったものではなく、あくまで子ども主体で、但し保育者の意図はある)
 - ・子どもが必要だと思ったものを用意する→自立につながる
 - ・見守ることの大切さ
 - ☆声かけのタイミング
 - 「どうしてだろう」「何でだろうね」
 - 子どもたち同士で意見を交換
 - 子どもが答えを発見
 - 子どもが「伝えたい」と思える

- 子ども同士が話す場の設定
 - ・教師側は見守りと状況の確認
 - 子どものつぶやきをひろうイメージで、意見をつなぐように
 - ・意見を言わない子、言えない子の思いのくみ取り方
 - 選択肢から引き出していく、自分で選べるように(言葉、行動、絵など)
 - 言えない・言わない背景を探る
 - 「〇〇かもしれない」という視点を多くもつ
 - 成功体験を重ねられるように

- 気付きを促す声かけ
 - 「ひみつはあるかな？」
 - 「どんな色？」「かたちは？」
 - 「お友達と同じところは？」
 - 「ちがうところは？」
 - 誰かに伝えて「共有したい」と思う「自分の発見」をもてるように
- 失敗しても大丈夫な雰囲気
 - ・「失敗」をただの「失敗」として捉えず、試行錯誤の一端として価値づけていく、多角的な見方
 - 心理的な安定が再挑戦する意欲につながる



第2班 テーマ：工夫を重ねながら、粘り強く取り組む

小山市立間々田小学校 奥井 牧恵
小山市立網戸保育所 牛久 雅崇

大切にしたい子どもの姿

無自覚な学び

- 自分の考えや思いを伝え合いながら、友達と一緒に遊んだり活動したり楽しさを感じている。
- 共通の目的に向かい、協力したり何度も繰り返したりしながら、最後まであきらめずに活動に取り組む。
- 遊びの中で、自分なりに工夫したり、友達と協力したりするなど、関わりを深める。

- 友達とイメージを共有しながら歌ったり踊ったり演じたりと自分なりの表現を楽しんでいる。
- 目標に向かい、友達と競い合いながら体を動かすことを楽しんでいる。
- これまでの経験を生かし、就学に向けて期待をもちながら意欲的に活動に参加し、見通しをもって生活する。

- 遊びをしながら、いろいろなことを試したり、工夫したり、新しいことを生み出したりしている。
- グループ活動などで、「自分たちだけでできた」という喜びを味わっている。
- 好きなことに取り組んだ満足感と自信をもとに、新たなことにも挑戦しようとしている。

- 生活科や図画工作での活動において、自分のやりたいことを自由に楽しく取り組み、作ったり、共有したりしている。
- やや困難なめあてを達成したという体験を何度かすることで、1年生としてのプライドをもって生活している。
- 活動の最後の振り返りにより、次の活動への意欲をもっている。

自覚的な学び

幼児期・年長後半

育ちにつながる活動の例



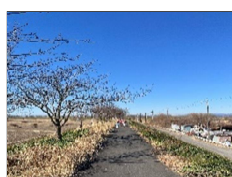
「野菜の栽培活動」
苗植え、水やり、収穫



「色水あそび」
様々な色を混ぜ合わせる



「運動会パルーン」
みんなで力を合わせて
技を披露



「マラソン」
ゴールを目指して走る



「がっこう だいすき」
学校探検



「夏がやってきた」
友達とトンネルを
つくったよ



「すいすいぐるーり」
初めて絵の具で描いて
みたよ



「スポーツフェスティバル」
2年生と踊ったよ

児童期・一年生前半

保育者・教師の指導のポイント

- 友達と遊んだり活動したりする中で思いを伝え合うことや相手の意見を受け入れ、時には自分の気持ちに折り合いをつけることの大切さを伝えたり一緒に考えたりしていく。
- 子どもの頑張っている姿を認め、小さな成功体験を繰り返していくことで、意欲や自信につなげていく。
- 子ども自らが試したり工夫したりしながら取り組めるよう、様々な材料を用意するなど、環境を整えていく。

- 子どもたちの考えや思いを伝え合う場を設けることで、子ども同士で活動を進めていく楽しさが感じられるようにする。
- 時にはうまくいかない姿も大切にしながら、うまくいった時には共に喜び共感し、あきらめずに挑戦していくことの大切さを伝えていく。
- 日々の生活や行事を経験する中で、一人一人が自信をつけ、期待をもって就学を迎えられるようにする。

- 活動に集中して取り組むために、教材の準備や学習形態を工夫する。
- 友達との伝え合いや学び合いができるように、ペア学習やグループ活動を多く取り入れる。
- 自分が満足できる活動、自分にとって必要感がもてるように場を作り、支援する。頑張ったりできたりした際は、褒めて自信をもたせる。また、児童の「次はこうしたい」という気持ちを大切にすること。

- 言葉でのやり取りを通して、思いを伝えたり、共有したりできるようにする。
- 困難にも負けずに努力したことについて、結果は問わずに大いに称賛するようにする。
- 最後まであきらめずに取り組むことを通して、何かが達成できるという体験を多くさせ、そこから得た喜びや自信を、児童の成長につながるよう支援する。



目指す姿：共通の目的に向け、試行錯誤しながらめあてに取り組む子ども

第3班 テーマ：工夫を重ねながら、粘り強く取り組む

栃木市立三鴨小学校 鈴木 夢香
 栃木市いわふね保育園 武田 安里

大切にしたい子どもの姿

無自覚な学び

- 道具の使い方を自然と知る。
- 欲求や思いのままに、自由な創作意欲をもって遊ぶ。
- 個々の遊びから、自然に友達との遊びに発展し、協力したり、役割分担したりして助け合う。

- 目標・目的に向かって、試行錯誤をしながら、活動に没頭する。
- 失敗をもとに、次はどうしたらよいかを考えたり、友達と話し合って取り組んだりする。
- 水の加減や力の加減に気付き、完成させた喜びを分かち合う。

- 学校の施設について知り、学校生活への興味を高めている。
- 自分の役割を理解し、友達と協力して活動している。
- 自分の思いをもち、言葉を通して相手に伝えている。
- 繰り返し活動する中で、失敗を経験し、あきらめない心をもつ。

- 課題に対して粘り強く取り組み、失敗してもあきらめない心をもっている。
- 友達同士で意見を伝え合い、より良い方法を考えている。
- 今までの活動を振り返り、経験を生かして、課題解決に向かっていく。

自覚的な学び

幼児期・年長後半

児童期・一年生前半

育ちにつながる活動の例



自由に砂遊びをする



友達と協力して砂遊びを楽しむ



手指を使って遊ぶ粘土遊びも泥団子作りに影響する



土・砂の感触や性質の違いに気付き、泥遊びを楽しむ



学校探検の中で、自分の思いをもち、友達に伝える



友達と話し合いながら試行錯誤して泥団子を作る



水や絵の具の量に気を付けながら、泥団子に絵を描く



自分で作りたいおもちゃを考え、工夫して作り上げる

保育者・教師の指導のポイント

- 思いのまま、砂場遊びを楽しむ姿を大切にし、見守る。
- 好きなことに夢中になる楽しさを知ることができるよう、十分な時間や場を設ける。
- 目的をもって、試行錯誤しながらつくり上げる経験をするとともに、完成させた喜びを感じられるような言葉掛けをしていく。

- 共通の目的の実現に向けて、考えたり、協力したり、工夫したりして、やり遂げられるよう必要に応じて援助する。
- 失敗を経験しても、またつくりようとする前向きな心をもてるような働きかけをする。
- 落ち込んでいる友達に対してどのような言葉をかければよいのか考え、一緒に再度課題に取り組めるよう援助する。

- 砂や土に触れる機会を多く設け、それらの違いに気付くような言葉がけをする。
- 児童の思いや考えを深める時間を十分にとり、自分自身の思いをもてるようにする。
- 一人一役をつけることで、責任をもって活動できるようにする。
- 相手への伝え方のモデルを示して、自分の思いを適切に伝えられるようにする。

- よりよい方法を話し合いで考えられるように、友達同士で意見を伝え合う時間をとる。
- 友達が失敗してしまったとき、どのように声をかけたらよいか一緒に考え、友達と頑張る気持ちを育てる。
- 活動の後の振り返りを十分に行い、良かったところや改善すべきところを挙げて、次の活動に生かせるようにする。
- 今までの経験を想起しながら、自分の思いをもち、友達と協力・工夫してつくり出せるようにする。

目指す姿… 目標・目的に向かって、試行錯誤しながら、最後までやり通す子ども



第4班 テーマ：工夫を重ねながら、粘り強く取り組む

さくら市立上松山小学校 久保 奏
さくら市たいよう保育園 川崎 莉歩

大切にしたい子どもの姿

無自覚な学び

- みんなで一つのことに取り組む楽しさを味わい、協力する大切さを感じている。
- みんなで決めた決まりや約束を守りながら活動している。

- 作りたいイメージの実現に向けて、集中して取り組んでいる。
- 友達との関わりの中で、相手の異なる思いや考えに気付き、気持ちを調整し、友達との折り合いを付けようとしている。

- 課題解決に向けて進んで取り組む意欲をもっている。
- 活動への見通しをもち、友達と役割分担などをして、計画を立てることができる。
- 友達の考えから学びを深めている。

- 一度失敗してももう一度挑戦しようとしている。
- 自分と相手の違いを理解し、相手の考えを受け入れようとしている。
- グループやペアの活動の中で伝える楽しさや伝わる嬉しさを感じている。

自覚的な学び

幼児期・年長後半



のぼれるようにしたい



おゆうぎ会



クリスマス会



リレー遊び



2年生との交流遊び



あさがおの観察



公園で遊ぼう



おまつり

児童期・一年生前半

保育者・教師の指導のポイント

- 活動の中で保育者主体でなく、子ども自身がやりたいことを選択できるような環境をつくる。
- 子どもたちだけでの解決が難しい場面を見逃さず、解決の糸口となるような声かけや促しを行う。
- 事前に残り時間や次の子どもの活動の流れを伝え、子ども自身が見通しをもてるようにする。

- 説明はゆっくり短く、ポイントをしばった内容にし、身体表現や具体物を取り入れるなど分かりやすくする。
- その子なりの表現を認め、ほめたり共感したりするなかで自信をもって取り組めるようにする。
- 興味・関心を高め、遊びのアイデアをもつきっかけとなるようじっくり遊ぶ時間を確保する。

- 一人一人と信頼関係を築き、安心感のある学級づくりを行う。
- 絵や写真、具体物を活用し、子どもたちが理解しやすいようにする。
- ペアやグループでの活動を取り入れ、話し合いながらより良い方法を見つけられるようにする。
- 手本となる児童を称賛し、よい姿を全体に広げていく。

- 学級全体で「間違っても大丈夫」という受容的な雰囲気づくりを行う。
- めあてを明確に示し、見通しをもって活動できるようにする。
- 振り返りの時間を確保し、「できるようになったこと」や「次、頑張りたいこと」を確認する。



目指す姿：目的に向かって何度も挑戦しながら最後までやり遂げる力が身につく子ども

大切にしたい子どもの姿

無自覚な学び

- 遊びの中で体を存分に動かし、友達と一緒に協力し合いながら「できた！」という達成感を味わっている。
- 当番や役割のある活動を通して、ルールを意識したり、言葉で伝え合う経験をしたりしながら、誰かの役に立つ喜びを感じる。
- 経験の積み重ねから、見通しをもって生活し、自分の力で最後までやり遂げようとする。

- 友達の思いを聞き入れたり、受け入れたりしながら、自分の考えを伝えたりする楽しさを感じ、共通のゴールを目指す期待感を高めている。
- クラスやグループの中で、なりたい自分を表現できるよう順番を話し合い、共感や承認の中で探究を深める。
- 小学校の1年生や教師との交流により就学への興味・関心と安心感が高まる。

- 年長までに園で培われた自信や入学への期待感をもって、新しい環境の中で生活することができる。
- 入学の喜びをもち、今までの経験を生かしながら、「小さな自立」を積み重ね、さらに自分に自信をもつことができる。
- 「できない」ことは失敗ではなく、過程であることを授業や行事の中で意識し、「自分でできた」という喜びを自覚する。

- 自分の考えを友達に話したり、教師や友達の考えを聞いたりする活動を積み重ね、考えを比べたりよりよくしたりする。
- 体験したことを言語化し、友達や教師、家族に伝え、思いを共有することができる。
- ペアやグループで、友達と話し合ったり協力したりでき、友達を思いやる心をもつ。

自覚的な学び

幼児期・年長後半

育ちにつながる活動の例

体を動かすって楽しい
「運動も遊び」試行錯誤を重ねる遊び
「表現するって面白い」互いの思いを伝え合う
「クラス活動」なりたい自分を表現する
「ゴールを目指して」

児童期・一年生前半

2年生と遊んだよ
「ばくだんゲーム」2年生ってすごいなあ。
「学校探検」ここはこの色にしようね。幼保小連携：運動遊び
「水あそびのまどづくり」「だるまさんがころんだ」

保育者・教師の指導のポイント

- 心と体を十分に動かしながら、「できた!」「またやりたい!」の感動体験につなげる。
- 教師も一緒に楽しみながら、子どもたち同士の関わりや行動、決断を見守り、一人一人の思いに共感する。
- 生活リズムを整えるために、運動遊びを推奨し、健康的な食事や睡眠を促す。
- 当番活動やゲームの審判の役割を提案したり、子どもたちの意見に耳を傾けたりして、環境を整える。

- 自分と友達との同じ思いに安心したり、異なる意見を受け入れたりしながら「みんな違っていいね!」「おもしろい」と認め合えるような関わり合いを見守る。
- それぞれが表現しやすい活動になるように時間と空間を工夫する。
- 活動の目標（ゴール）を話し合い、子どもたちが主体的に行動できるよう見守る。
- 子どもたちが試行錯誤を楽しみしながら、成功や失敗の経験ができるような環境や援助を行う。

- 入学へ向けた子どもたちの期待感ややる気を大切にしながら、スタートカリキュラムを中心に進める。(校内の職員や保護者と連携を図り、協力をしていく。)
- 国語・算数・生活・音楽・図工・体育・道徳を合科的に行い、子どもたちの様子をよく観察しながら1日の流れをつくる。
- 新しい環境の中で学校生活を安心して送ることができるよう、担任や支援担当は温かな雰囲気子どもたちに接するよう配慮をし、信頼関係をつくる。

- 園や家庭での生活から克服していききたいと思う苦手なことや、得意だと自信をもっていることなどに様々な場面で挑戦する姿に寄り添いながら成長を見守る。主体的に取り組む姿を大切に見守りながら、自信をつけていけるよう学習・生活面で支援を行い、認め励ましていく。
- 初めての学習に新鮮な気持ちで取り組む子どもたちの知的好奇心を大切にしながら学習の基礎を定着させ、主体的に学ぶことのできる力を育てていく。

目指す姿… 安心感と自信の中で、様々な経験を通して学びへ向かう子ども



大切にしたい子どもの姿

無自覚な学び

- 遊びの充実や読み聞かせを通して現実世界で集中する力がつく。
(遊びを通して学ぶ楽しさ)
- 体を動かして遊ぶ楽しさやみんなと力を合わせる面白さを味わう。
- 友達の声に耳を傾ける。自分の思いを自分の言葉で伝える。互いのよさを認め合う。

- 遊びの中で楽しみながら文字や数に親しみをもつなど、様々なことへ興味関心を膨らませる。
- 自分なりの目標をもって繰り返し取り組むことを楽しみ、達成感を仲間とともに味わう。
- 園での生活を振り返り、自分の成長を知る。
- 自分に自信をもち、小学校への期待を膨らませ、心待ちにする。

- 小学校生活への期待・緊張と、あらゆることに対する好奇心を併せもっている。
- 年長児において培ってきた自信と自己肯定感を発揮できるように見守る。
- 他の園から来た友達と話をしたい、遊びたいという意欲を大切にする。

- 学習に意欲をもっている。
- 分かったことを友達に教えたい！話したい！という意欲がある。
- 自分の席で勉強したいという気持ちをもっている。
- 覚えたひらがな・カタカナを書きたい！文字で自分の思いを伝えたいという気持ちをもっている。

自覚的な学び

幼児期・年長後半

『My 雑巾縫い』
強い雑巾にするために『自分の雑巾で雑巾がけ』
当番だって楽しく！『竹馬に挑戦！』
自然に生まれる助け合い『三つ編み縄跳び作り』
さらなる楽しみを求めて『どろんこパーティー』
自然との触れ合い『切ってのぼして』
コミュニケーション能力育成『言葉さがし』
興味・関心『雨の音』
微細運動

児童期・1年生前半

- 自分たちがどんなやり方で、どこに向かって進みたいか、何を成し遂げたいかなど明確な目標を決めるための時間（みんなで話し合える）を大切にする。
- 保育者が敏感に声を掛けるのではなく、一人一人自分で心が動く瞬間を大切にすることで本当の達成感を味わえ、またやってみたい！を感じられるようにする。
- 声掛けや手助けをするのではなく、見守る。

- 一人一人の目標に寄り添い、さらなる楽しみをみんなで考えたり、共有したりできる時間をつくっていく。
- 日々過ごす中で、自分で打開していくこと、仲間と助け合うこと、そんな子どもの力を信じて、保育者は声掛けを減らし、一步引いて見守ることを意識する。

- 学校生活は安心、楽しいと思える活動や授業になるような工夫をしていく。
- 活動や体験を重視した学びを多く取り入れた授業を行うことで、児童のやりたい！やってみてみたい！という気持ちを引き出す。
- 教室は静かに座って勉強する場所ではなく、動きのある学びもできる、教室全体が学びの場所であることを味わわせる。

- 間違えるのが当たり前なので、友達との伝え合いや教え合いの中で自分で間違いに気づき答え合わせの前に直せる雰囲気づくりをする。
- 授業規律（鉛筆の持ち方、座り方など）も小学校の指導として必要だが、「どうやるんだろう」「何を使ったらいいかな」という児童の思考を大切にす



目指す姿：主体的な生活と豊富な体験を通して、粘り強く取り組む子供

育ちにつながる活動の例

保育者・教師の指導のポイント